

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (C)  
 研究期間：2006 ~2009  
 課題番号：18530369  
 研究課題名 (和文) 戦後日本における「家」と家業経営の変容過程に関する歴史社会学的研究  
 研究課題名 (英文) Continuity and Change of 'Ie' and Family Business in postwar Japan  
 研究代表者  
 米村 千代 (YONEMURA CHIYO)  
 千葉大学・文学部・准教授  
 研究者番号：90262063

研究成果の概要 (和文)：戦後日本の家業経営について戦前からの連続性と変化を社会的に検討することが課題であった。事例研究として瀬戸内海の塩田地主にとっての「家」と家業経営の変容過程を追ってきたが、戦後社会にあって、技術革新と地縁・血縁ネットワークのあり方が重要な鍵を握っていたことを浮き彫りにし、もう一方で進めてきたファミリービジネス研究との接点が整理された。家業経営は、多角化した大規模な事業体の場合必ずしも一地域に限定・固定されるものではないが、拠点を置く場所のネットワークは生き残りにとって重要な意味を持っていた。技術革新については機械化等により存続を可能にした企業もあれば、他方で、従来の方法を守ることでそれをブランド化し、生き残っている事業もある。たとえば、醤油醸造業に着目した場合、機械化してグローバル化していく事業体と、各地で伝統的な醤油樽で醸造する製法にこだわる事業体がある。こうした複数の存続戦略を射程に含んだことで多様性と重層性が明らかになった。

研究成果の概要 (英文)： Family businesses have been changed in postwar Japan. On the one hand, some of them closed their business, but on the other hand some of them are keeping their business. Through the analysis, I contend that long lasting family businesses experienced the innovation and change and the regional networks played the great role for their management. They had to change for the continuity. Keeping businesses are also important for the regional development where they locate. These interrelationships are one of the most important factors for family businesses in contemporary Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
総計	3,600,000	750,000	4,350,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：家族、「家」、家業経営、ファミリービジネス

### 1. 研究開始当初の背景

家業経営に関する研究は、おもに戦前を対象とした「家」研究を中心に膨大な蓄積がある。しかし、戦後、特に70年代以降は、「家」研究よりも都市のサラリーマン家庭の核家族研究に研究が集中し、「家」や自営業家族の研究は周辺的な位置におかれてきた。しかしながら、今日、介護や扶養、相続の問題などで「家」という忘れ去られたテーマに再び着目が集まりつつある。

他方経営論においても、ファミリービジネスは近代化、グローバル化とともに衰退していく存在として位置づけられていたが、現在にあっても一定数のファミリービジネスが経済に少なからぬ影響を持ち続けていることが、内外の議論の俎上にのぼっている。

この二つの領域は、それぞれに家族や経営の連続性や継承の問題に関心を寄せているが、独立の領域として研究が展開されてきた。本研究は、両方を接合して、戦前から戦後への連続性と変化、そして次に述べる国際比較を射程に含んで統合的な研究を進めることを目的とした。

本研究課題の着想は、これまで取り組んできた「家」と家業経営の歴史社会学研究の延長線上にある。ファミリービジネスの現状や国際研究の関心の高まりから、家業経営研究は単なる過去の社会の研究としてではなく、現在の問題として再考する必要性があると再認識した。その際には、単に過去の時代の枠組みをそのまま適用して連続性を主張するのではなく、連続性と変化、つまり変容過程を捉え直す必要があった。

ファミリービジネスの展開を追うには、それぞれの地域の産業構造や、事業の規模、歴史など複合的な要因を考慮する必要があり、単純な比較は難しいと考えられるが、最終的に現場へと還元できるような成果を残すためには、遠回りであっても精緻な調査研究が求められている。

### 2. 研究の目的

戦後日本における「家」と経営の変容過程を、家族と家業経営の両側面の関連に着目して考察することが主目的であった。研究全体の構想は、近代日本における「家」の変容を明治期以降から戦後、そして現在にいたるまで捉えるという壮大なものであるが、本研究課題においては、昭和以降、特に戦後80年

代までを射程にその変容を捉えたいと考えた。「家」は、戦後、家族の領域と経営の領域、それぞれ独立の領域で研究対象となることが多かったが、家族経営の現実には、家族的側面、経営的側面、両方をあわせて考察することで見えてくる。「家」の戦後を、長期的、複合的、変容過程として捉えようとするのが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

資料分析と個別の事例調査を主たる研究方法とした。個々の事例分析としては、まずは企業体ごとの歴史をたどることができる社史、企業史の検討をした。また大企業に限らず、中小規模の「家」の記録を収集することを重視し、瀬戸内地域の塩田、醸造業の事例を調査した。一家業経営体の研究は、しかし地域経済や社会のあり方と深く関わっている。事例研究を進めるにあたっては地域史や社会経済史の資料収集の重要性が浮かび上がった。

そこで、個々の企業の時間的変化という縦の分析に加えて、時代ごとの横のネットワークを調べるといった横断的分析をあわせて行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 事例研究

瀬戸内地域の醸造業、塩田業を主な対象とした。「家」と家業経営の変容過程にとっては、技術革新と地縁・血縁ネットワークのあり方が重要な鍵を握っていた。この点については、もう一方で進めてきたファミリービジネス研究との接点が整理された。家業経営は、多角化した大規模な事業体の場合、必ずしも一地域に限定・固定されるものではないが、拠点を置く場所のネットワークは生き残りにとって重要な意味を持っていた。技術革新については機械化等により存続を可能にした企業もあれば、他方で、伝来の方法を守ることによってそれをブランド化し、生き残っている事業もある。

たとえば、醤油醸造業に着目した場合、機械化し、グローバル化していく事業体と、各地で伝統的な醤油樽で醸造する製法にこだわる事業体がある。こうした複数の存続戦略を射程に含んだことで多様性と重層性が明

らかになった。多角化によってリスクを分散する企業と、専門化して存続をはかる企業が見られた。

#### (2) 家族以外とのネットワーク

また、危機に面した経営体にとって、地元のネットワークが、社会的・経済的・政治的に「家」を支えていた。この点、今日のファミリービジネス研究が、地域の再生に着目する点と共通している。多くの家業経営にとっては地域との関連が重要であると同時に、地域の再生に関する議論でも地元産業や観光振興を考える上で、存続してきたファミリービジネスを再評価しようという機運がある。

#### (3) 連続性と変化

しかし、戦前に特徴的だった家業経営のあり方がそのまま戦後に適応したわけではない。存続している事業体は必ず変化を伴っている。その連続性と変化については、今研究ではいくつかの事例において検証できた。今後事例研究を進めて、日本社会の変動との関連づけ、国際比較へと展開していくべき基盤作りができた点が成果である。

#### (4) 学際的な視点

本研究課題をすすめるなかで、経営学や金融関係の実務家、ファミリービジネスのオーナーとの接点があった。それぞれ専門や立場は異なるが、学際的研究をさらに発展させていくネットワークングも成果である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①米村千代、ポスト青年期の親子関係意識：「良好さ」と「自立」の関係」、人文研究(査読無)37号,2008、127-150

②米村千代、「田間泰子著『近代家族』とボディ・ポリティクス』、『家族研究年報』(査読有)(書評)No32,2007,88-91

③米村千代、近現代日本における墓と『家』—死後の在処をめぐる困難と矛盾、桜井厚編『コミュニティ形成におけるメディアの経験と語り(社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書)』(査読無)2006、47-58

〔学会発表〕(計1件)

①米村千代「NFRJからみた現代家族の姿」日本家族社会学会第19回大会 奈良女子大学2009年9月12日

〔図書〕(計2件)

①Chiyo Yonemura, 'Continuity, Solidarity, Family and Enterprise: What is an Ie?' Yonemura, Chiyo and Mary Louise Nagata, in Antoinette Fauve-Chamoux and Emiko Ochiai(eds), The Stem Family in Eurasian Perspective. Peter Lang, 2009, 273-286

②米村千代「資本家の婚姻と「家」の存続戦略」、國方敬司他編『家の存続戦略と婚姻—日本・アジア・ヨーロッパ』刀水書房(査読無)、2009、71-85

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

米村 千代 (YONEMURA CHIYO)  
千葉大学・文学部・准教授  
研究者番号：90262063

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：